

竹ヶ島海中公園自然再生全体構想 概要

目標

エダミドリイシが健全な状態で生き続けていける環境（海中公園指定ときにエダミドリイシの高被度群集のあった範囲に設けられたモニタリング区画において、サンゴの被覆率が50%以上あり、その内のエダミドリイシの優占率が60%以上である状態）を目指す。

課題

- 異常低温や生活排水流入・漁港改修による地形変化などに伴うサンゴの死滅、サンゴの種の構成の顕著な変化
- 水質悪化や磯焼けなどの海域環境の劣化
- 耕作放棄地や荒廃した里山の増加、畦畔・護岸・水路などのコンクリート化に伴う自然環境及び景観の悪化
- 地域林業の衰退に伴う下層・林床植生の劣化、表土流出や斜面の崩壊、降雨に伴う大量の出水による被害
- 水田の宅地化やほ場整備による乾田化に伴う田園生態系の低下及び流域の水循環機能の低下
- 海中公園周辺の沿岸環境の貴重さやそれを保全していくことの大切さの理解度・関心度の不足
- 就業人口の減少と高齢化による地域漁業の衰退（沿岸生態系の劣化）

竹ヶ島海域公園自然再生協議会

平成17年 9月に組織化
令和 6年 7月 構成員数40個人・団体
(個人20、団体18、行政機関12)

※なお、平成22年の自然公園法の改正に伴い、「竹ヶ島海中公園」から「竹ヶ島海域公園」に名称が変更されている。

対象区域

最も重要な対象区域：竹ヶ島海域公園区域
その他：海部川、宍喰川及び野根川の3水系の河川流域とその周辺地域
※対象範囲は、やまエリア、かわエリア、うみエリアの3つに区分される

サンゴの移植作業



エダミドリイシが健全な状態で生き続けていける環境

自然再生の10の原則と3つ個別目標

◆自然再生の原則

- ① 沿岸生態系につながりがある地域全体を対象に考える
- ② 自然の復元力を活かし、人為を必要最低限に抑える
- ③ 科学的知見を集積しそれにもとづいた将来予測のもとに実施する
- ④ 長期的な視点に立ち、達成可能で具体的な目標を設定する
- ⑤ 継続的に状態・状況を監視し、変化に応じて柔軟に事業を見直すことができるように運用する
- ⑥ 自然環境の保全と利用、防災の調和を目指す
- ⑦ 自然再生が地域の活性化につながることを目指す
- ⑧ 情報の公開と説明を十分に行い、地域住民の主体的な参加を確保する
- ⑨ 地域の自然環境と歴史・文化に対する理解や親しみを深める
- ⑩ 地域の多様な主体により自然再生を推進する

◆個別目標

- ① 豊かな沿岸生態系の回復
- ② 健全な水循環の再生
- ③ 元気な地域社会づくり

基本方針とその取組

方針1：エダミドリイシの特性把握

- ・ エダミドリイシの特性の把握
- ・ エダミドリイシの有性生殖による増殖手法の確立
- ・ エダミドリイシが健全な状態で生き続けていける環境の把握

方針2：海中公園周辺の環境改善

- ・ 竹ヶ島・甲浦湾のもつ海水流動機能の修復
- ・ 沿岸生態系の回復と美しい海中景観の修復

方針3：陸域からの環境負荷の軽減

- ・ 良好な河川環境や身近な自然環境の保全
- ・ 河川や海域に流れ込む水質の向上
- ・ 地域農業の活性化

方針4：地域の多様な主体の参加と連携による取り組み（協働）

- ・ 普及啓発・環境学習の推進
- ・ 地域の元気の再生に向けて（観光、防災）
- ・ 拠点整備

方針5：海中公園と共生する地域漁業の活性化

- ・ 「賢い海の利用」の展開